

全国協議会 ニュース

2018年6月1日発行 第312号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3 階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
http://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

コーディネート期間132日に短縮 患者救命のために 100 日以下への実現を！

骨髄バンクのコーディネート期間（患者登録から移植までの日数）は、2017年度統計で132日となり、前年度144日から12日短縮されました。患者さんの病状にあわせて移植を行うことは、移植成績（患者救命）とQOL（生活の質）向上の決め手です。それゆえにコーディネート期間短縮化は、患者さん・医療関係者の強い願いであり、日本骨髄バンクと国（厚生労働省）も10年以上前から取り組みを表明していました。ようやく成果が始め出ており、今後、100日以下に短縮する確実な対策の実施が期待されています。

患者登録から移植までの 行程、期間

骨髄移植が必要な患者さんは、家族内にドナーが見つからない時、主治医は骨髄バンクに患者登録します。骨髄バンクは、HLA 適合ドナー登録者を探し、主治医に連絡します。主治医が選んだドナーは、4段階のドナーコーディネート行程を辿って骨髄提供（採取）します。

このコーディネートの各段階では、ドナーへの説明や検査手続き・病院との調整に一定の時間がかかります。移植までの期間は、世界的には100日前後が大半であり、日本の期間短縮化が急務になっています。

コーディネートは 4 段階の行程

①（初期行程）HLA 適合ドナー登録者を検索し、主治医に候補者リストを送ります。主治医が選んだドナー候補者の方々に、提供意思と健康状況について文書を送り確認します。

②（確認検査行程）ドナーコーディネーターが、ドナーと面談説明し、医師による健康検査（血液一般検査）などの結果により、主治医は何人かのドナー候補者から一人に絞り込むドナー選定をします。

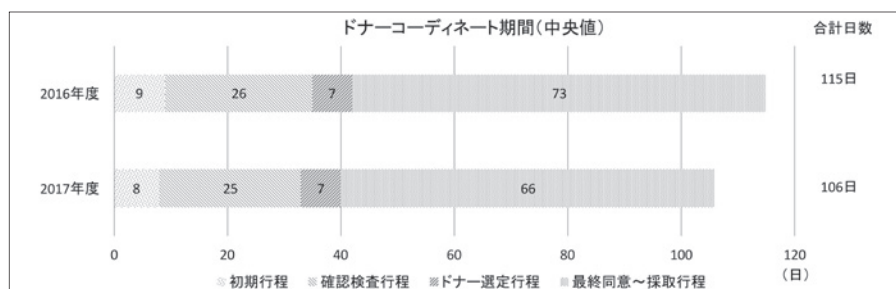
③（最終同意行程）ドナーと家族の最終同意を面談確認します。

④（採取行程）最終同意後に採取病院・移植病院と日程調整を行います。そして術前健康診断と自己血採取を行い、ドナーの方は指定病院へ入院し、提供（採取）となります。

期間短縮の推移、各行程の日数

移植患者さんの登録から移植までのコーディネートに要した日数は、2015年度147日⇒2016年度144日⇒2017年度132日と短縮されてきました。

一方、ドナーコーディネート期間の統計（下図参照）によると、ドナー候補指定から採取までの期間（骨髄ドナー）では2017年度106日（前年度115日）と9日短縮されています。

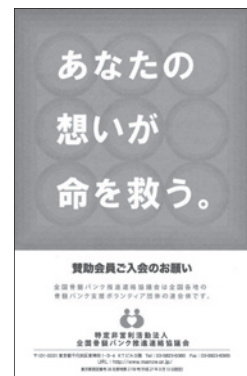


アクションプランの作成、実施

今年4月から、コーディネート開始のドナー人数は5人から10人に増加されました。その成果が期待されます。

今後は、コーディネート期間を100日以下にするため、各行程での主治医や調整医師、ドナーとの連絡方法や手続き、移植・採取施設との連絡調整などの見直しについて、短縮化のアクションプラン（例えば3カ年計画）などの作成、そして確実な対策の実施を強く求めます。

賛助会員募集



私たちの活動を支える賛助会員を広く募っています。お問い合わせは、事務局までお願いします。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《MONTHLY JMDP(5月15日発行)より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状(2018年4月末現在)

	3月	4月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,067	2,822	484,912	733,861
患者登録者数	205	220	3,762	53,588
移植例数	106	97	—	21,885

■4月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／790人、献血併行型集団登録会／1,944人、集団登録会／49人、その他／39人

■4月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,396人／20代 72,315人／30代 137,359人／40代 208,064人／50代 62,778人

■4月の20歳未満の登録者613人

■4月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：476件

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

特集

ドナー登録推進活動、頑張っています。

今号では、神奈川、大阪の活動をご紹介します。各地での関係者間の連携、そして創意工夫が良く分かります。地域活動のご参考としてご覧ください。

神奈川骨髓移植を考える会

はじめに

神奈川骨髓移植を考える会は1990年6月に発足し、今年で28年目に入りました。会員は95名で、骨髓バンクの普及啓発、ドナー登録会、患者サロン、医療講演会・患者相談会、会報「虹」の発行、チャリティーコンサートなどの活動を行っています。

このような活動の中で①骨髓ドナー登録の伸び悩みと高齢化、②血液センターとの協力・連携、③ボランティア(説明員)の高齢化に対応し、新人(若者)の養成と活動参加などの課題が浮かび上がってきました。

始まりは3者会議から

ドナー登録に対する日赤血液センターとの連携について、神奈川県、日赤血液センター、当会の3者による会議の開催を県に申し入れ、第1回3者会議が2012年10月に開催されました。その席で、3者が情報交換、連携を密にして献血、ドナー登録の推進向上を目指すことが確認され、第1歩として、2013年4月から横浜駅東口、川崎駅

前献血ルーム2カ所に説明員を配置し、ドナー登録の実施がスタートしました。

県主催の説明員養成講座

神奈川県の主催、日赤血液センターと当会の共催で「骨髓ドナー登録説明員養成講座」が2016、2017年に3回開催され、30数名の受講者がありました。講習修了者で説明員の認定を受けられた方が、新しい活動仲間として加わってくださり、組織の若返りと活動の活性化が図られています。

ドナー登録会の実施

献血バスでの献血併行型ドナー登録会の開催は、概ね月5～10回程度計画しています。1会場には説明員5名程度を配置し、登録者は10名以上が目標です。実施に当たっては、血液センターから提示された2カ月先までの配車計画から実施日を調整します。

ドナー登録会は、登録と広報の場と考え、チラシとティッシュをセットにして配布しながら登録の呼びかけを行っており、また、登録者には当会のパンフレット、会報とグッズをお渡ししております。



神奈川県主催の説明員養成講座

大学での登録会
ライオンズクラブとの連携

最近、特に取り組んでいることは、若い世代のドナー登録が期待できる大学での登録会の開催です。この大学での登録会は、ライオンズクラブとの連携が大きな推進力となっています。今年4月の登録会は13回、そのうち大学での登録会は何と7回も開催されました。

献血ルームでの登録推進

献血ルームでは、3つのルームに月1回、土曜日の12時から17時まで定例化してドナー登録を実施しています。各ルームには説明員を3名ずつ配置し、着実に成果をあげています。↗

ボランティアとして、デビュー

3年半前、骨髓バンクを通じて命をいただいたにもかかわらず、ボランティアとは無縁な生活をしていた私が、東京の代々木公園での「スノーバンク」に向いた時に神奈川骨髓移植を考える会(BMT 神奈川)を知り、その後、患者サロンに参加して素敵な方々と出会いました。人好き出好きの私は、移植後の身体の不安や、社会との透明な壁を取り払い、生まれて初めてボランティアの世界に飛び込みました。

大学や街頭でのドナー登録会では、ドナー登録をしていただくという大切な役割を担いながら、各々の立場を思

いやりリスペクトするという人として大切なことを考えさせられる貴重な体験の場ともなっています。

患者サロンや医療講演会では、接することが難しい著名な先生方と、かつての私のごとく悩み苦しんでいる患者さんとお家族を交え、お話ししたり笑ったり泣いたり…。仲間の輪は次々と広がっていきます。

チャリティーコンサートは、病気とは無縁の方々に活動をアピールできる有意義な機会を得られ、私達自身も楽しいひと時を過ごすことができます。

かつてドナーさんから「貴女のドナーになったこと…どうもありがとう」というお手紙をいただき涙した私は、今、この活動を通して、誰かのた



写真右：小石川さん

めではなく、自分自身のためにやらせていただいていると実感しています。人生の扉を開いてくれた素晴らしい輪をもっともっと広げていきたいと、今日も笑顔を絶やさず活動していきます！！ (神奈川骨髓移植を考える会 小石川知子)

4 者会議で情報交換、連携

年数回開催する4者会議(神奈川県、日赤血液センター、ライオンズクラブ、当会)で情報交換と連携を取りながら、献血、ドナー登録等を推進しています。今では4者会議の協議から生まれた、県主催の説明員養成講座による活動仲間の若返りと、大学での献血併行型ドナー登録会等により課題改善の兆しが見え、組織の活性化とドナー登録者の増加などに成果が現われています。(神奈川骨髄移植を考える会 村上忠雄)



関西骨髄バンク推進協会

血液センターとの相互協力

NPO 法人関西骨髄バンク推進協会は、1992年10月に設立。2003年10月にNPO法人に認証され、今年で15年となります。昨年3月に、大阪府立成人病センター内にあった事務局を、日赤のご理解をいただき、大阪府赤十字血液センター内に移転しました。

このおかげで血液センターとの距離が近くなり、情報提供、相互協力がうまくなっています。説明員には「献血ボランティア」として、日赤職員による献血研修も受けてもらい、「献血と骨髄バンク」の推進活動をしています。

併行型登録会も献血ルームでの活動も、献血受付時に、対象年齢者に対し「骨髄バンクの登録会もしているので

当協会実施の併行型登録会

年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
登録会回数	158回	163回	187回	144回	198回
登録者数	739人	776人	1007人	985人	1771人

※ 2015年4月事務局体制変更

※ 2017年3月に血液センター内に事務局を移転

説明を聞いていただけますか?」と声掛けをしてくれるようになりました。登録会場も、大学など、より多くの若い方が集まるところを中心に力を入れています。

ライオンズクラブ、ロータリークラブ

ライオンズクラブの例会などに参加し、骨髄バンクの現状と登録会開催、活動資金のための寄付のお願いをしています。昨年と今年4月、ライオンズクラブ主催で御堂筋献血ルームと京橋駅前で15日間連続併行型登録会を実施しました。

ロータリークラブの若年層クラブ「ロータリーアクトクラブ」では年2回、5会場合同献血での併行型登録会を実施しています。クラブの例会講演で説明員の不足を訴えたところ、クラブのメンバーが説明員となってくださり、活躍しています。

堺市との協定

昨年10月から、堺市と連携・協働して骨髄移植等の推進をすすめています。具体的には市民の骨髄移植・骨髄バンクへの理解を深めるための講演、チャリティ事業、登録会の実施、新規

説明員研修会の実施、支援金の給付等です。その事業資金はクラウドファンディングで調達しています。

行政、日赤、当協会の3者で献血・登録会場の新規開拓、講演会などの打ち合わせも行い、情報共有しています。

講演、勉強会の実施

これまでも、大学献血の前に勉強会を実施していましたが、先日、看護学校での献血併行型登録会開始前に、日赤職員による献血の話、当協会からは骨髄バンクの説明、患者経験を話して多くの献血・ドナー登録がありました。話を聞いてすぐそのあと、というのが効果的でたくさんの方に登録していただきました。また、企業の労働組合などでも献血と骨髄バンク、日赤と当協会のタッグでいろいろなところで啓発活動をしています。

これからの課題

登録会の案件をたくさんいただいているのに、活動できる説明員が足りず応じられないのが現状です。実はたくさんいる説明員がなかなか参加できていません。比較的時間の取れるシニアの方々にも呼びかけていきたいです。(関西骨髄バンク推進協会 浅野祐子)

説明員として、頑張っています

骨髄提供を2回経験された平山直人さんにお聞きました。(当協会の会員)

Q バンク登録のきっかけは?

A 登録のきっかけは10年ほど前、TV番組で心臓病の男の子が心臓以外は健康だからと臓器提供意思カードを持っているのを見て、五体満足の方が何もしていないのが恥ずかしくなったからでした。

Q 適合通知がきた時の気持ちは?

A やっと役に立てると思い、嬉しかったです。

Q 2度目の提供のときはいかがでし

たか?

A 前回から3年しか経っておらず、こんなにすぐに適合するんだという驚きと同時に嬉しさがありました。

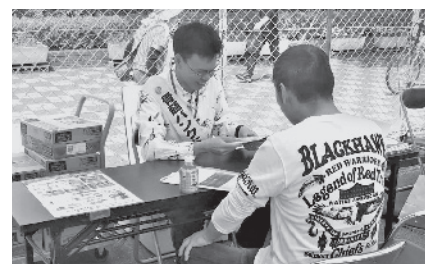
Q 説明員になったのは?

A 骨髄提供は2回までの決まりなので、上限を迎えてもっと骨髄バンクを広めたいと思い、骨髄バンクのボランティアの事を調べて、説明員を知りました。

Q 説明でこころがけていることは?

A 2回のドナー経験者としての実体験を交えて、説明するようにしています。

Q 活動していて、感想や希望などありましたらお願いします。



写真中央：平山さん

A 骨髄バンクについて誤解を持っている方が多いので、正しい知識を広めていきたいです。また、若い世代に骨髄バンクへの興味を持ってもらえる啓発活動もしていきたいです。そして、提供回数上限が改定されて3回目、4回目の提供が可能になる日を心待ちにしています。



長野

読売巨人軍戦での ドナー登録会

4月24日(火)、長野オリンピックスタジアムにて読売巨人軍の社会貢献活動「G hands プロジェクト」の一環として「骨髄バンクドナー登録会」が行われました。

日本骨髄バンク主催のもと、ボランティア団体「骨髄バンク長野 ひまわりの会」も参加しました。長野県でのドナー登録会は、献血併行型で開催していましたが、集団ドナー登録会は初めての試みでした。当日は私たち、ひ

まわりの会のメンバーは説明員として、ライオンズクラブの方々とは呼びかけなどして、20名ほどで観戦客に啓発グッズを配るなどの普及啓発活動をしました。ファンの皆さんはとても協力的で沢山の方が説明を聞いてくれて、ドナー登録数は37人。こんな数は私も見たことがなく驚きました。有難いことです。

啓発グッズは、読売巨人軍のドナー登録会で配布される限定ステッカー。登録者には選手の直筆サイン入り色紙がプレゼントされました。私もステージに登壇させてもらい、移植患者として自らの体験談を話すなどドナー登録の大切さ、命の大切さを伝えました。

ドナー登録者最下位の長野県。こう



写真右：笠原さん

した取り組みは、数を競い合うものではありません。まずは骨髄バンクを知ってもらうことから周知し、一人でも多くのドナー登録者を増やすために今後とも活動に力を入れていきたいと思っています。

(骨髄バンク長野 ひまわりの会
代表 笠原千夏子)

千葉

青葉の森リレーマラソン たすきをかけPR

5月20日(日)第16回千葉・青葉の森リレーマラソンが千葉県立青葉の森公園で開催されました。このリレーマラソンには、千葉大学病院血液内科の医師・看護師・HCTC・技師などの多職種混合チームを結成し、近隣病院の血液内科医2名も加わり20名・2チームがエントリーされました。出走240チームの中、千葉大学病院血液内科の2チームは、骨髄バンクの黄色いタスキを着けてPRをしながら走ることにしました。

このお話を頂いた移植コーディネーターの立花さんは、私の夫の骨髄移植の際、本当にお世話になった方です。

当日はマラソン日和の晴天で、千葉の会から8名が応援に駆けつけました。

チームの集合場所であるさくら山付近でご挨拶後、タスキ受渡付近と1キロ中間地点の2手に分かれて、幟と手作り応援ボードを持って「がんばれ～」

「ファイト～」と声援を送りました。走ってくる先生方が、応援に気づいて手を振ってくれる場面もあり、少しでも力になれたかと嬉しく思っています。多くのチームが無地の細いタスキでしたので、骨髄バンクの黄色いタスキはとても目立っていて、大いに骨髄バンクのアピールができたのではない



でしょうか。

先生から「走るのがつらくなる中間地点でも応援して下さい、走り切ることができました。今年はとても楽しい会となりました。」との言葉を頂きました。

(千葉の会 北村美和子)

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【一般賛助会員】

匿名＝東京▽秋田美代子＝岐阜



心からのご寄付に感謝申し上げます ●4月21日～5月20日(敬称略)

●一般

藤波 敬子	現金	10,000 円
齋藤 生吾	現金	30,000 円
塩谷 泰人	現金	2,000 円
山村 詔一郎	現金	3,000 円
鎌田 政雄	現金	10,000 円
匿名	現金	5,000 円

●佐藤さち子患者支援基金

福原 卓也	現金	5,000 円
匿名	現金	50,000 円
●志村大輔基金		
匿名	現金	89,790 円
●こうのとりのマリン基金		
川村 肇	現金	5,000 円
匿名	現金	5,000 円

●募金箱

株式会社クリのアオキ	現金	500,708 円
ゴールドジム御殿場	現金	3,627 円
●かざして募金		
	現金	1,900 円

活動資金の支援を
お願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会